日本電気硝子株式会社

2026 年度第 3 四半期決算説明会における主な質疑応答

（2026 年 10 月 30 日（金）、オンライン）

Q１．第 3 四半期の売上高と営業利益について、第 2 四半期からの増減要因を教えてほしい。

Ａ１．売上高は、7 月 6 日に公表しました複合材事業の米国子会社の生産活動停止及び譲渡により大きく減少しています。また、ディスプレイ事業ではパネルメーカーに生産調整の動きがあり、販売数量が減少しました。
営業利益は、第 2 四半期決算説明会でお話ししましたように、ディスプレイ事業の全電気溶融設備への転換及び定期修繕に係る費用がこれまでの四半期より多くなっています。加えて、ディスプレイ事業では円安により費用が割高になりました。エネルギー等の価格は、想定していたほど上昇しませんでした。

Q２．第 3 四半期の営業利益は想定どおりだったのか。

Ａ２．営業利益は、各事業で想定より良くなりました。ディスプレイ事業では、費用が事前の想定ほど上昇しませんでした。電子デバイス事業では、好調な販売に支えられて営業利益も伸びました。機能材料の分野では、様々な改善施策の効果が出てきています。

Q３．電子デバイス事業では、半導体用サポートガラスの足元の出荷は堅調との説明だったが、その他の製品の状況を教えてほしい。また、低誘電ファイバの進捗を知りたい。

Ａ３．情報通信用途は、需要が旺盛な状況に変わりありません。なかでも、マイクロキャピラリーは当初想定以上に需要が旺盛ですので、当社でも設備投資を行いフル生産で対応しています。
低誘電ファイバは、当初計画よりも少し遅れています。D2 ファイバの量産販売は 2027 年度第 2 四半期を見込んでいます。

Q４．通期業績予想の営業利益は上振れそうな印象を受けたが、会社側はどのように見ているのか教えてほしい。

Ａ４．第 4 四半期のディスプレイ事業の販売数量は、第 3 四半期と比べて減少する見込みです。複合材事業はマレーシア子会社でエネルギーコストが上昇する見通しです。これらの影響をどの程度受けるかによりますが、通期業績予想の営業利益 200 億円は達成できるものと考えています。

Q５．2027 年度の営業利益の見通しを教えてほしい。

Ａ５．現在、来年度の予算を作成しているところであり、お話できる数字は持ち合わせていませんが、事業別に見ますと、ディスプレイ事業では値上げの交渉を進めています。電子デバイス事業は、好調な需要環境が継続する見通しです。複合材事業は、今年度に行った事業構造改革の効果が出てくると見ています。一方、エネルギーコストの増加や為替の変動がリスクです。総合しますと、来年度は期待できるのではないかと考えています。

※このメモは、投資家の皆様へのご参考として掲載するものです。
※このメモは、説明会における質疑応答の一字一句を全て書き起こしたものでなく、弊社の判断で簡潔にまとめさせていただいておりますので、ご了承ください。
※このメモには、将来の弊社の業績や弊社を取り巻く業界の環境に対する予想が掲載されています。これらは弊社グループが開示時点で入手可能な情報に基づく判断によるものであり、リスクや不確実性を含んでいます。また、このメモの内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。